

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の思いに沿う事が出来るように理念に基づいて行っている。又職員との話し合いの機会をもうけ、一年間の目標を立て実践につなげている。利用者の方にも理念について報告している。	生活の場として家庭と相違なく、ゆっくりと過ごしてもらいたいという職員の思いで作られた「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分らしさや誇りを保った暮らし」という理念に、20年度からは、地域に根ざした支援を行いたいという想いで、「地域」という言葉が加えられました。リビングや事務室に掲示にしており、理念の実践に取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の園児達が訪問、集落の子供みこしが玄関前まで来所、小学校の運動会に参加、病院祭等に参加し交流を行っている。	散歩の時の挨拶や、一緒に散歩をするなどの日常的な付き合いに加え、近隣保育園、小学校の運動会、協力病院である山北徳洲会病院の祭りへ参加などが行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	集落の集まりで、認知症のパンフレットを参加者に配布し、少しでも理解してもらえるように取り組んだ。又災害時には協力をお願いした。、		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回会議を開催し、取り組みや、状況を報告している。色々な助言を頂き少しでも行き届けるサービスが出来るように活かしている。	市の担当者、地区の防災委員、ご家族代表などの参加していただき、事業所からの報告に加え、参加者からの意見や助言が寄せられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者は協力的で有り、色いろと指導や助言を貰っている。又いつでも電話連絡等で相談に応じて貰っている。	市の担当者と良好な関係を築き、電話や担当者が事業所へ来所するなどの中で、運営に関するあらゆる相談が行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っている。日中は玄関、窓の施錠はせずに自由に出入りが行える様にしているが、夜間一人対応になった時は、施錠をしている。	マニュアルの整備の他、協力病院からの研修など周知徹底を行い、職員全員が身体拘束をしないケアを当然として業務にあたっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり常時職員と話合っている。	虐待防止に関する講習会へ参加した職員からの伝達研修や協力病院の協力による勉強会が行われています。また、言葉遣いや無視などのケース検討を行い、虐待防止の徹底に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方もいない為言葉事態は分かっているが薄れている。施設内で勉強会を行った。各自が理解出来るように又活用出来るように今後も研修会等に参加する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明を行っている。常時質問等があるときには回答を行い理解をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが意見、苦情等は1件も今までなかった。又来所時には聞くようにしている。8月の家族会でも意見を聞き悪い所等は皆で直している。利用者に対しては時々不満があるか等を聞く機会を設けている。	意見箱の設置や来訪時の面談や電話連絡による聞き取りに加え、家族会が行われ幅広く意見や苦情を聞く機会が設けられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から自由に意見が言えるような関係作りをしている。意見等が合った時には皆で話し合いを行い直ぐに解決をしている。	毎朝のカンファレンス及び月1回の全員参加のスタッフ会議が開催されています。また、個別面談も年に1～2回設けており、職員の意見を吸い上げられるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価シートの提出等で個々の評価にて努力、実績を踏まえて給与、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等については希望のものが受けられるように常日頃から働きかけている。又本社とのテレビ会議等でも研修をする機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村上市GH管理者の意見交流会、職員の交流会等に参加できるように配慮されている。情報交換や親睦会の参加によりサービスの質の向上を図っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には不安や困っている事があるかどうか傾聴、動作などで捕らえ安心出来るように取り組んでいるが常に聞き取りを行い対応につとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に要望や困っている事などの確認を行い対処できる事は、受け止め対処している。又いつでも相談しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族と相談を行い現時点で必要としている支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者には、人生の先輩として、分からない事や昔のしきたり等について貴重な意見を聞きながら、毎日暮らすもの同士の関係作りに努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族が安心して暮らして行く為に、随時相談したり、協力を得ながら環境作りに努め支えていけるようにしている。	ご家族の状況を把握した上で、病院での受診、必要な物の差し入れ、外出や外泊など、ご家族にお願いできるところは役割分担をし、事業所と共にご利用者を支えていく関係が作られています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞きながら生まれた場所、嫁いだ場所などに、ドライブの機会を儲け外出援助を行っている。又家族の方にも馴染みの関係や場所が途切れないように進めている。	日常の会話のなかでご利用者の希望を確認し、ご家族の協力も得ながら、お墓参り、自宅への外出支援などを行い馴染みの関係が継続できるように支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を理解しながら孤立しないように声かけ等を行い、周りの利用者と共に支えあえる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在まで入院死亡者1名のみの契約終了である。これからの状況に応じて、相談や支援に努め関係作りを大切にしていきたい。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を聞き意向の把握に努めている。訴える事が困難な方には、行動、表情で察知、又家族等にも相談し把握に努め支援している。	ご利用者との日々のコミュニケーションから得た情報を支援経過に記載し、モニタリングや評価の際にケアプランに反映しています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活歴情報を基に支援しているが、日々の関わりにより、新しい情報が得られる為、暮らし方などを聞く機会を、多く持ち把握に努めている。又家族からの情報からも把握に努めている。	毎年度ご利用者のフェイスシートを更新し、情報を順次更新し、蓄積されています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態、出きる事、出来ない事を見極めながら、現状の把握に努めその人、その人の一日の過ごし方が有意義であるように毎日の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望、職員からの意見を取り入れ作成している。又日々の変った所など毎日カンファレンスを行い評価時に考慮し計画を作成している。モニタリングについては月に一回行っている。	カンファレンスにてご利用者、ご家族の要望を汲み入れ、職員の協議の上、介護計画が作成されています。1ヶ月に1度のケアマネジャーによるモニタリングと3ヶ月に1度の担当職員による定期的な見直しが行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の気付き、ケア実践の結果を個別記録に記入し、申し送り等で伝達を行い共有している。3ヶ月に1度の評価、又状態に応じ随時見直しを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化については行われていないが施設内では個々のニーズにあった柔軟な支援を行っている。(個人リハビリ等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭などには子供みこしが来所され子供たてと写真撮影等を行い楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関に受診出来るように配慮している。基本的には家族の対応ですが、都合の悪い時、遠方の方、緊急対応時には、職員が対応している。	以前からのかかりつけ医を希望される方と協力病院を希望される方と、希望に応じた対応が行われています。受診の際は状況の報告を書面にて医師に行うことで、情報交換が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは、いつでも気軽に相談に応じてもらえる関係であり、受診の可否の支持を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者と密に連絡を取り情報に努めている。又、時々お見舞いに行き状態観察に努め退院後の支援がスムーズに行われるように行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設当時から看取りの指針が作成されており、契約時には説明をしている。現在看取りまでは至っていないが職員の間で話合う事がある。重度化、終末期時には早く対応をし、説明を行うようにしていきたい。	契約時にはご家族に事業所の看取りに対する考え方を説明し、ご理解を得ています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	BLS、救急救命講習会等の勉強会に参加している。	マニュアルの作成と周知徹底に加え、協力病院にてAEDの取り扱いと救命救急の研修が行われ、参加できなかった職員に対しても伝達研修が行われています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震想定避難訓練等は定期的に行っている。水害時については、消防署から指導を受け職員皆把握している。地域の方、協力病院に協力体制を築いている。	火災、地震を想定した避難訓練は毎月実施しており、近隣住民の方にも参加していただいています。	
、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを傷つけない様に、声かけや、誘導を行っている。又職員は、個人情報の重要性を認識し対応している。	個人情報保護の方針と利用目的が事業所に掲示されており、規定に基づいた取り扱いが行われています。また、言葉遣いや羞恥心への配慮も、管理者を中心に職員同士が折に触れて注意しあい、徹底されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が可能な方には、希望を聞きながら添うように努めている。不可能な方には、表情、行動、筆談等で自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を優先するように職員全員が心がけ、散歩、ドライブ等に行けるように支援しているが、希望に添うことが出来ない要望もあり断る事もある。(独居であり家に行く等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添う衣類と一緒に準備する。判断がつかない方には合った洋服を選びおしゃれに努めている。訪問理容では、本人、家族が希望する髪型になるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で取れた野菜や、昔食べた季節の物を取り入れ工夫している。昔の食べ方を利用者に聞きながら一緒に作る事で思い出しながら指導される。準備、片付けも行っている。	ご利用者の状態や気分に応じて準備、後片付けを職員と共に行われています。また、ちまきをご利用者と一緒につくったり、季節によっては家庭菜園で収穫した野菜をメニューに加えるなどの工夫がなされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事量や水分量には毎日配慮している。水分不足の時は、色々工夫して摂取して貰っている。食事制限のある方には医師からの指示により対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じ、誘導、声かけを行い、出来る所は本人に行ってもらい出来ない所は一部介助を行い清潔保持に努めている。		
43	(16)	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握しながらその人に応じたトイレ誘導を行いトイレでの排泄でオムツの軽減を図っている。日中には紙パンツを外し、又夜間でも失敗がないように定期的にトイレ誘導の支援を行っている。	排泄チェックし、排泄パターンを把握することで、オムツや紙パンツの使用を軽減し、トイレでの排泄が行えるよう支援されています。	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬の使用、水分を多く摂る、運動等を行い支援している。		
45	(17)	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回と入浴日は設定されているが、本人の希望によりいつでも入れるよう支援している。	基本的な時間帯はありますが、ご利用者の意向を尊重し、対応されています。また、入浴を嫌がる方に対しては声かけやタイミングの工夫など、職員間で連携し、無理強いをすることなく、入浴を楽しめる支援が行われています。	
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣、状況により昼寝等の声かけを行い休息をして貰っている。夜間眠れない方がいる時は、会話、飲み物を提供し、側で寄り添い眠くなるまで一緒に過ごし、安心して眠れるようにしている		
47		○ 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員がいつでも見れるように効能、注意事項を記載した説明書をファイルにしている。全員が理解し、服薬介助の支援を行っている。又変更、臨時薬の把握にも努めている。		
48		○ 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、能力を活かした役割分担が決まり、毎日張り合いを持ち行っている。歌、ドライブ、散歩等で気分転換を図れる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の要望に添って外出援助に努めている。実家の近く、家の近くまで行きたいとの希望があり出かけている。家族の方にも外出、外泊が出来るように勧めている。買い物、人がたくさん集まる所には行きたくないという方もいる。	日常的に散歩や買い物などの外出が行われています。また、季節のいい時期に花見や紅葉狩りなど、行事としての外出の支援も行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で預かり、日用品、訪問診療費の支払を行っている。2名の方は、少しでも持っていないと不安との事でお小遣い程度を所持している。買い物時には付き添って支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望する方、又自ら希望できない方は、家族を心配した様子などを察知し電話を掛け支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースには、ソファを置きくつる場所にしてある。ホール、玄関には季節の花を飾ったり、創作活動で作られた季節毎の貼り絵など掲示している。音、光、温度等は常に配慮している。	白と木目を基調とした室内は清潔感があり、ホールや廊下などに季節を感じさせるご利用者の作品が適度に飾られていることで、季節感や温かみを感じる空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に廊下奥の窓際に腰掛一人です外を眺め、ゆったりと過ごす居場所となっている。又利用者同士でも集まり会話している時には椅子を準備しゆっくり過ごせるようしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具やベッドを持ち込まれ本人、家族の希望どうりに配慮されている。敷物については、転倒の危険性がある時には家族と相談し、安全に過ごせるように配慮している。	ご利用者が使い慣れた物を持込んでもらうよう働きかけ、居心地良く個性のある居室になるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力を見極めながら安全で、いつまでも自立した生活が続く様に配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容